

令和 8 年度倉敷市立自然史博物館協議会 議事録（要旨）

開催日時）令和 8 年 7 月 2 9 日（水） 1 3 時 3 0 分～ 1 5 時 3 0 分

開催場所）倉敷市立美術館 3 階第 2 会議室

報告事項）令和 7 年度事業報告について

令和 8 年度事業計画について

新自然史博物館・ライフパーク倉敷整備事業の進捗状況報告について

出席委員）碓京子委員、石垣忍委員（会長）、片岡博行委員、河合重人委員、菊池勲委員、
中西公仁委員、長櫓涼子委員、西山圭子委員、三宅加寿子委員、山野ひとみ委員、
吉岡勉委員（副会長）（5 0 音順） 【計 1 1 名】

欠席委員）渡邊黎也委員 【計 1 名】

事務局）仁科康教育長、永野裕二生涯学習部長、杉本紀明館長、奥島雄一館長補佐、武
智泰史主幹、中西伸明主幹、大磯一聡主幹、木村浩子副主任、鐵慎太郎学芸員、
笠谷幹朗学芸員

傍聴者）なし

報道関係者）なし

議事録（要旨）

1 開会

事務局

これより令和８年度倉敷市立自然史博物館協議会を開催する。

2 開会あいさつ

事務局（教育長）

本市においては、自然史博物館をライフパーク倉敷に移転して機能を統合する整備事業を進めており、令和１１年の供用開始を目指している。新自然史博物館には、「知る・学ぶ・楽しむ」という３つの要素をバランスよく体験できる博物館、そして倉敷らしさを感じることができる博物館を目指し、本年２月に建築・展示に関する事業者との契約も締結して現在は基本設計を進めているところである。この進捗状況については、本日の協議事項の中でも説明を行う。

本日は令和７年度の事業報告、８年度の事業計画等を説明する。委員の皆様には幅広い視点、また専門的な観点から忌憚のない意見を賜り、今後の博物館運営に活かしていきたいと考えている。

3 委員ならびに事務局職員自己紹介

4 協議事項

（１）正副会長の選出について

事務局

今回は昨年１１月末の委員の改選後の最初の協議会であるため、規則に基づき、委員の皆様の互選により会長・副会長の選出をお願いしたい。委員の皆様からの発言を求める。

委員

前期に引き続き、会長を石垣委員に、副会長を吉岡委員をお願いすることを提案する。

事務局

ただいま会長と副会長の推薦があったが、他の意見はどうか。特に意見がないようであれば諮問する。会長に石垣委員、副会長に吉岡委員を選出することよろしいか。それでは、会長に石垣委員、副会長に吉岡委員を選出する。石垣会長・吉岡副会長から一言ずつ、ご挨拶をお願いしたい。

会長

この協議会は、倉敷市立自然史博物館の今後の発展を目指して、また、運営に関して市民の意見を反映させる重要な機会だと思っている。皆様から忌憚のない意見をいただき、

運営に寄与していただきたい。会長としてまとめ役をしていきたいと思うので、よろしくお願いする。

副会長

副会長に推薦していただいた。非力ではあるが、力の限り頑張ろうと思う。よろしくお願いする。

事務局

それでは、報告に移る。ここからの進行は博物館条例施行規則に基づき、会長に会議の議長をお願いする。

5 報告事項

(1) 令和7年度事業報告と(2)の令和8年度事業計画について

会長

(1)の令和7年度事業報告、(2)の令和8年度事業計画を一括して事務局からの説明をお願いする。なお、質問やご意見は説明が終わってから一括してお願いする。

事務局

(1) 令和7年度事業報告(配布資料に基づき説明)

「集めて未来につなげる」について、昭和58年の開館以降の資料受け入れ点数は令和7年度末時点で約110万6,407点である。93.7%は市民、或いは市内外の方からの寄贈による。他は職員による採集や、他館との交換、購入等である。令和7年度は1,452点の標本を受け入れ、資料の登録点数は4分野合計で1万2,256点、文献等は1,454点となっていて、これまでの累計の登録点数は計57万6,279点である。令和7年度の受け入れた資料で特筆すべきものとしては、鏡野町教育委員会から寄贈された交雑オオサンショウウオ2点がある。各分野の登録点数の内訳として、地学が1万3,104点、植物が25万8,581点、昆虫が25万6,620点、動物分野が4万7,974点で、植物と昆虫の点数は中四国の博物館でトップクラスである。令和7年度のこれらの資料の利用実績は計188件、資料を引用した著作・件数は合計で24件である。

「教養文化の向上を目指す」については、令和7年度の全体利用者数は4万2,163人で、生命展をライフパークで開催した年や昆虫展及び成羽美術館での恐竜展を開催した年は圧倒的に多い。その後、新型コロナウイルス感染症が拡大した年に落ち込み、それ以降は回復傾向を経て横ばいとなっている。特別展として令和7年度は、地学分野の「くらしを支えた岡山の石たち」を行い、岡山県の岩石、鉱物等を展示した。会期は令和7年9月14日から11月9日までで、その間の観覧者数は8,649人で、1日の平均は157人であった。その他、特別陳列・企画展として「秘蔵お宝展 第3弾」、「しぜんしくらしき賞作品展」、「人生を豊かにする植物展」、「たかはしまいまい 昆虫絵本画展」を行った。令和7年度のそのほかの展示以外の教育普及事業では、自然観察会を19回行い、参加者

数は８１６人で、講座教室等は２３回行い、参加者数は６７３人だった。代表的なものは４月２０日の「高梁川流域自然たんけん 総社市」、７月５日の講座「昆虫標本の作り方」、８月１７日の「夏休み！自然のなんでも相談会」等である。「自然史博物館まつり」を１１月２日と３日に開催し、来場者数は３，４８２人で令和６年度から１０％増となっている。その内容は、学芸員トークバトル・植物アートカレンダー作り・スズメバチの巣の解体ショー等で、その他、外部団体の方にもご協力いただき、清心女子高等学校の自然科学部からは「発見！ダルマガエルの秘密」というコーナーを出展していただいた。

「人づくりを担う」については、ボランティアや職場実習を受け入れた。ボランティア活動は各分野でそれぞれ参加していただき、令和７年度は延べ４７２人の方にボランティアをしていただいた。職場実習等の受け入れでは、職場体験、大学生の博物館実習、インターンシップを受け入れ、レファレンス対応は令和７年度では６２０件対応した。

「連携して共に成長する」では、まちかど博物館の標本セットを貸し出して、令和７年度は新規の申し込み件数が延べ３９件、新規貸し出し台数が延べ７４台と多くの利用をしていただいた。また、主に小中学校を対象とした出前講座では計２１件に対応し、参加者数は計７１９人だった。他には博物館友の会との共同事業の「ミズアオイの種まきとネイチャーゲーム」を行った。

「より魅力的な博物館を目指す」では、博物館の研究報告の発行を行った。そのほか、博物館外の刊行著作物の執筆を計５７件行い、マスコミ報道件数は４３件あった。広報活動として、ホームページ、メールマガジン、X、Instagramでの発信を行い、それぞれのアクセス数や登録者数は令和６年度から増加している。

なお、令和６年１２月に公表された「新自然史博物館（ライフパーク倉敷整備基本計画）」については後ほど説明させていただく。

令和７年度事業報告は以上である。

事務局

（２）令和８年度事業計画（配布資料に基づき説明）

展示の方は、前年度から年度をまたいで行った「たかはしまいまい昆虫絵本画展」を含め、全部で６件の特別展・特別企画展を開催する予定である。６月は特別陳列「高梁川流域の陸と水辺の生き物たち」ということで、高梁川流域の自然を紹介した。現在は第３５回特別展「自然にひそむアブナイやつら」を開催している。また、９月末から今年度からの新しい試みとして「倉敷市児童生徒自然史標本作品展」を開催予定で、その後、野鳥画展に関する展示を２期に分けて行う予定である。

自然観察会は２０件超を行う予定である。

講座イベント等は約２５件開催予定で、現在は「みんなのむしむしサロン」を地階の講義室にて開催中で、市民の方に楽しんでいただいている。第２６回「自然史博物館まつり」を１０月３１日と１１月１日の土日の２日間にわたって開催予定である。これまで自然史博物館まつりは開館記念日の１１月３日を含む日程としていたものの、来年度以降との調整結果として今年度は開館記念日に近いこの日程で開催することとした。

令和８年度の事業計画については以上である。

会長

以上の（１）令和７年度の事業報告、（２）令和８年度事業についてのご意見、ご質問等を出していただきたい。

委員

色々な催しをされていることが分かった。今年度も研修会、それから自然観察会、様々なイベント等を企画されているということで、楽しみにしている。

会長

レファレンス対応６２０件の具体的な受け方を尋ねたい。

事務局

レファレンス対応は、電話のほか、メールで写真を送っていただいたり、持ってきていただいたり、というような形で対応している。

会長

他にも委員のご意見を尋ねたい。

委員

２０２６年度のイベントカレンダーは公表が遅かったが、年度替わり、或いは年度替わり直前くらいに出すのが理想と思う。内容等を詰められないのもあると思うが、年度替わりを目処に出してから後で修正するということをしてみてもどうか。

事務局

次年度の事業の公表は、前年度の議会で予算を含めた承認を得た後が原則。承認後の年度が替わるより前のタイミングで公表することが理想と考えるので、今後はそれを目指し、できるだけ固まった状態で用意していきたいと考えている。

委員

自然好きの皆さんが喜ぶと思うので、よろしく願いしたい。

会長

できる範囲でお願いしたい。他にご意見を求めたい。

委員

今年から倉敷市児童生徒自然史標本作品展が実施され、博物館友の会が行っていた「し

ぜんしぐらしき賞」がなくなった。倉敷市の施設なので、市の方針が最優先されることは理解するが、博物館としては倉敷市の施設であると同時にそれを支えて利用している人は倉敷市民に限らない。倉敷市外の児童生徒に自然史標本の作品展の応募資格がないことは、近隣の市町村の小学生が博物館を利用する機会を1つ失った、ということが言える。

倉敷市は高梁川流域の連携を市の方針としており、児童生徒の自然史標本作品展をせめて高梁川流域での連携事業とすることはできなかったか。今年から変わったばかりなのですぐとは言わないが、将来的な方向性の一つと考えていただきたい。

会長

事務局からのコメントをお願いしたい。

事務局

昨年度までは博物館と博物館友の会とが共同で、応募者のエリアを限定しない「しぜんしぐらしき賞」を実施していた。これについては倉敷市科学作品展に出された作品が、そのまま「しぜんしぐらしき賞」に出されることが非常に多く、作品展としては二番煎じになってしまうという課題があった。1つの改善策として倉敷市児童生徒自然史標本作品展を始めることとした。委員のおっしゃられる高梁川流域連携事業について、ということは現時点では、博物館の独断で持っていける状態ではない、と認識している。

会長

補足すると、「しぜんしぐらしき賞」という形で、いわゆるコンテストが毎年実施されていたが、今年から無くなり、倉敷市児童生徒自然史標本作品展になったと説明があった、ということである。

委員

今年度から小・中の科学研究協議会に関わり、作品展を4地区で実施して、その子どもたちの作品の中から選んでいただいたり、賞をいただいたり、ここで展示していただいたり、といった良い機会をいただけることは、大変ありがたいお話、とお受けした次第であるが、そこまでの経緯は私たちもよく把握していなかった。小学生・中学生にとっては、大変良い機会だなと、ありがたく思っている。

会長

今まで選ばれたものの展示は、学校でやるイベントのその日だけで終わっていたのか。保護者の方が見て終わり、といった感じか。

委員

大体2日間。倉敷地区はライフパークで、土日の2日間に展示させていただいていた。

会長

自然史博物館では2週間あまり展示するというメリットもあると言える。委員の意見も考えていただきながら、来年度以降、様子を見ていただきたいと思う。他にも、委員のご意見を求めたい。

委員

中学校の最近の生徒手帳が、紙媒体からQRコードを読み込む電子媒体に変わりつつある。自然史博物館や美術館について、中学生がXとか、Instagramを見て「行ってみようかな」と思ったときに割引制度とかポイントが付くとかあるのか、質問したい。

事務局

自然史博物館は現状、高校生以下が「無料」であるため、中学生の割引やポイント制度は設けていない。

委員

理解した。

会長

中学生は博物館に來ない年齢層と思うが、奨励する要素が加わるなら良いとも思う。何かとポイントを貯めるということがあるので、良いかもしれない。

委員

ぜひ学校で習ったようなことを博物館で実際に物を見て、本物で確かめるといったことでもしてほしいし、逆に、自然史博物館で見たことについて、学校の教員に質問してくれるとかいったことでもほしい。本来は中学生がもっともっと博物館に來て、本物に触れると良いな、と思っている。夏休みの前に「自然史博物館やら、色んな美術館やら行って本物を見ようね」というものの、なかなか中学生は部活動のほう忙しいようで、そちらの方に時間を取られて行けなくて残念だな、と思っているので、もっともっと中学校現場の方でも周知を心がけていきたいと思う。

会長

他に、ご意見を伺いたい。

委員

ポイント制度については、博物館友の会の方では、行事に参加するとスタンプを押して、貯まると良いものがもらえる、というポイント制度のようなものがある。

委員

さっき、友の会が出たので質問するが、友の会はどんな方が会員になっているのか。

会長

友の会にはどんな人が入るか。友の会の会長である副会長から回答をお願いします。

副会長

入りたい人が会費を払って入っている。友の会会員は、今、二百何十人と言ったか。

委員

二百六十何人だったかと思われる。

副会長

家族で1組と数えていて、子どもたちがどれだけいるか把握できていない。友の会には自然の中に出て行くのが好きな家族、あるいは大人が入っている。

委員

私は自然史博物館で展示しているようなものと触れる機会が生活の中であまり無く、博物館に教えていただいたり、皆さんのお話を伺ったりしながら、この博物館があることが地域にとって、それから、未来の子どもたちにとって、すごく大切なんだなっていうことを前回のときにも、ここへ来て感じている。それをそのまま、Instagramとかホームページですごく分かるように伝えてくださっているが、そこに興味がない人のところには届きにくいと感じる。友の会というものがある、ということも私は知らなかった。これをどういう形で知らせているか。例えば、いつも虫を追いかけて回している子等に、どんな形で「こんなものがあるよ」というのが伝わるか。

会長

要するに、自然史博物館とか友の会とかの存在が、いかに周知されるか、というお話かと思う。事務局の方からコメントはあるか。

事務局

博物館としては友の会は重要な協力団体で、実際に博物館の、特に野外の観察会とかは友の会共催という形でやったださっている。博物館主催で講師を学芸員が務める場合も参加者の受付をしていただいたり、駐車場の案内をしていただいたり、列の安全確保等の様々な係を友の会のスタッフやボランティアがしてくださる協力関係がある。一方で個人的には、友の会の広報が若干弱いと感じている。現状は博物館内の掲示、それから友の会もSNS等で発信をしていて、共催や友の会独自の観察会では友の会に入って一緒にやろう、というお話がされていると認識している。

委員

理解できた。

委員

行事のアピールについては、倉敷市の広報紙である広報くらしきに載っているかな、といつも見ている。昔は広報広聴課、今はくらしき情報発信課が担当課として紙面に載せているが、掲載スペースの関係で若干小さい。議会で年度が変わって予算がこれくらいあって、ひとり頭これくらい使えますよ、という記事は大きく載せるが、色んな行事のアピールに対するスペースが大変小さいのかな、と議会の中でも話題になっている。もっと強く言ってほしい。

事務局

おっしゃっていただいた博物館の行事を広報させていただく、ということについては、博物館と友の会の共催の博物館行事は、基本的にその広報紙に掲載するようにしている。だが、時期によって、市全体で行事が多かったら全部は載らないことがある。感覚としては8～9割方は掲載されている感じである。

会長

色々なところに情報は出ている。私も岡山市の広報紙が送られてくるが、ほとんど読んでいない。館報にはマスコミ報道で何十本も色々なところに掲載されている。それから、毎月、学芸員の方が代わり番で、山陽新聞の「さん太タイムズ」に記事を載せているし、色々なところに出ている。昔に比べてそういう情報を、あまり皆さんが目にはされていない。昔は、新聞はほとんどの家庭がとっていたが、今はそうではない。一方で SNS が色々と普及して、いわゆる戦略が必要というところになる。色々なアイデアも事務局へお出しいただき、より効果的に広報活動をしてもらいたいと思う。

事務局

博物館では電子版のイベントニュースを発行している。学校を通じた電子配信で、保護者の方々が登録してくれれば届くようになっている。

会長

幼稚園児等は、どちらかというとライフパークの倉敷科学センターの展示の方が親しみやすいのかなという気がする。こちらの自然史博物館の展示は少し難しいのかなという一般的な傾向があるかと思うが、その辺りはどうか。

委員

色々とお出前講座とかイベントのことも聞きながら思ったが、やはり小・中・高校生向けが多いのかな、という印象がある。できれば幼稚園向けの何か分かりやすいような、出前

講座等を増やしていただけるとありがたいと思う。

会長

自然史博物館の展示の意味そのものは、4～6歳の子どもにはまだ分からない部分もあるが、それでもナウマンゾウや動物の展示のこと等は、意外と絵やビジュアルとしてしつかりと頭に残るようである。小学校に入ってからその時の話をしたりするので、そういう意味では、ここに来たら来たなりに何か心に残るものがあるのではないかと感じる。

委員

出前講座の実施回数が年間で21回、参加者数が700人以上で非常にうらやましいが、これは倉敷市内だけを対象とした実績なのか。それとも、依頼があれば市外へも出向いているのか。例えば先ほど高梁川流域というお話も出ていたが、倉敷市立とはいえ、岡山県内の専門的な施設はほぼここ自然史博物館だけと思うので、そういった市外への広がりや活動が今後どの程度に展開される予定があるのか伺いたい。また逆に、こちらへ来館される、スクールツアーの数は年間でどれくらいあるのかについてお伺いしたい。

会長

市外での活動について、およびスクールツアーについて、事務局からの回答を求める。

事務局

出前講座について、基本的には倉敷市内を対象としている。市外からの場合は倉敷市の出前講座としてではなく、講師依頼という形でお受けすることがある。

委員

積極的に市外へ出るわけではないということか。

事務局

積極的に市外の方に対応ということは難しい。

会長

職員の皆さんもワークライフバランスもある。新館開館に向けた仕事も色々と増えていることと推察する。

委員

今年度の事業計画についてのご説明について尋ねたい。今年度、博物館として特に力を入れていきたい事業があれば教えてほしい。また、それを進める上で課題があれば、この場で共有させていただいて、解決にむけて協力させていただければと思う。

事務局

この後、新館の説明があるが、建物は新しくなる一方、中身もそれにふさわしいものを新しく作らなければならない。今年は、「高梁川流域の自然」と「自然にひそむアブナイやつら」という4分野の学芸員が力を合わせて作り上げた展示をした。新館の展示も全体のバランスの取れた展示を心がけていきたいと考え、お試しの試みも含めて実施した。また、できるだけお客様に接する観察会等の機会に、直接ご意見を伺う機会を持つよう心がけている。

委員

先ほど新館の話が出たが、豊橋市に自然史博物館と動物園等が一体となった総合的な施設があり、自然史博物館はどうあるべきかということで市民文教委員が視察したことがある。展示では恐竜等があり、ファンを増やす一つの方法として、ショップでぬいぐるみや本等を販売しながら子どもたちが形に残ったものを持ち帰り、さらに興味を示す。そうした取り組みも内々では考えられているであろうが、新館になるにあたり、色んなイベントが、ライフパーク全体の相乗効果として期待でき、検討していただければと思う。

会長

このあとも新自然史博物館、ライフパーク倉敷の整備事業の説明があるので、その中でもお話しいただければと思う。

副会長

先ほど事務局から、総合的な展示をされているというお話があり、非常に良いなと思った。これまでは何とかコレクション展等という、専門的な方には非常に喜ばれるが、一般の方にとっては少し食いつきにくい展示もあったのではないかと感じていた。それが今回、総合的なものになったり、絵本・絵画、野鳥画等になったり、この辺、はじめてというか興味が深くない人にとってもとっつきやすい。展示方法が良い雰囲気になっっていると感じている。

会長

それでは(3)の議題に移る前に、私からコメントをさせていただく。自然史博物館の機能として研究というのは非常に重要なベースであり、これがないと博物館としては成り立たない。一つ要望として研究報告が第41号を数えているものの、これらはJ-STAGEには載っていない。貴重な地域の自然史に関する研究報告なので、ネットの検索で引っかけられるように、文献検索のシステムに載せていくことが望ましいと考える。多少の手間と費用はかかるが、大学の紀要等も今その方向に進んでいる。また、冊子体の印刷はなく、ネット媒体だけの発行という所もある。その辺もやり方を現状に合った形で、研究が参照されるような形になることを考えていただければと思う。ご検討いただきたい。

(3) 新自然史博物館・ライフパーク倉敷整備事業の進捗状況報告について

会長

(3)「新自然史博物館・ライフパーク倉敷整備事業の進捗報告」について説明をお願いする。

事務局

(3)新自然史博物館・ライフパーク倉敷整備事業の進捗状況報告(配布資料に基づき説明)について、令和4年3月に策定した「倉敷市公共施設個別計画」において、自然史博物館はライフパーク倉敷に移転し、ライフパーク倉敷との機能を複合化した整備を検討する方針が示された。その後、実施した、庁内検討会議による意見交換、来館者アンケート、パブリックコメントを踏まえ、令和6年12月に策定した「新自然史博物館・ライフパーク倉敷整備基本計画」に基づいて、事業者選定支援業務の事業者の支援を受けながら、整備事業を実施するための建築および展示事業者の選定に向けて準備を進めてきた。まず「基本方針」というものが方向性、どのようなイメージを持つかということであり、そして「基本計画」というのが内容について固めていくものとして考えている。これから進める「基本設計」の中で大枠の設計、そして「実施設計」という形で、それを詳細にした設計という段階に進んでいく流れである。事業者募集を令和7年1月から開始して、同年12月に優先交渉権者の選定を行った。令和8年2月議会における事業予算の承認を受け、令和8年2月18日付で建築と展示、それぞれの事業者と事業契約を締結した。また、円滑な事業実施に万全を期すため、設計から施工完了、移転までの一連の事業管理支援業務を委託する事業者についても、プロポーザルを実施し、令和8年3月に優先交渉権者を選定したところである。

ここまでの令和7年度になり、今年度、令和8年度においては、4月に事業管理支援業務の委託契約を締結し、この年度末を目途として、各事業者と基本・実施設計の協議を進めていくこととしている。令和9年度、来年度から工事の施工を開始し、令和10年度中に完成、令和11年度中の供用開始を目指して、今後の事業計画を進める予定である。

以上をもって、整備事業の状況報告とさせていただきます。

会長

今、紹介いただいたように物事がさーっと進めばいいけれども、実際には色々なことがあると思う。実際の開館予定が令和11年度中と説明があったが。

事務局

具体的な時期は、今、計画の策定中ということもあり、11年度中の供用開始に留めている。詳細については計画中である。

会長

早ければ今から3年弱後、遅ければ3年半後くらいという感じか。ライフパーク倉敷の

福田公園の場所に新博物館ができるというご説明が事務局からあった。今の説明に関連し、質問とかご意見等を伺いたい。特に、これからできていくにあたっては、ここにいる博物館の関係者の皆様、さまざま大変忙しくされると思う。また、こちらの現在ある博物館から、ある段階で閉じて、そちらに色々なものを移すということも生じられると思われる。その辺はまだ、いつからどうなるということは、もちろん決まっていなくても、それに関して利用者の立場からのご要望とかご意見とか、或いはスタッフの方々への激励でも良いので、発言をお願いしたい。

委員

もう少し詳しくいうと、基本計画で自然史博物館をどう確保するかということは、庁内による検討とかいろんな部分がある。それを皆さんの意見を聴いて、今度はそれを建てる、運営していく場面で倉敷市がやりたいことを公表する。それが基本計画の公表という形になる。それに対し、エントリーしたい建築とか展示の部分の各企業がその内容を持ち帰って提案してくる。最終的にそのエントリーをしてきた会社のすべてのものを評価して、審査し、優先交渉権というものを与え、会社の意見を参考に基本設計を練る。これが大体決まると、実施に進み、本当にいわゆるコンクリートを入れたり、柱が建ったりする設計の部分はどうするかを決めていく。それがOKになると、今度は実際に物事が進んで工事が始まる。その概略の予算的なものは、議会の中で承認されているので、実施計画・基本計画がきちっとお互いで「これでよろしい」ということになれば、スムーズに進む。現状で材料が入るとか入らないとか、そういうアクシデントは、今の時勢だったら十分に考えられるので、計画通りの11年がどうかというのは、非常に未定な状況と言える。そういうことが含まれていることをご承知おきいただきたい。

会長

要するに、その基本計画という形でずっと進んで、業者さんからの基本のプランがこれから出来上がっていくとのご説明があった。ほかに、ご質問を伺いたい。

委員

楽しみにしている。

委員

博物館がライフパークに移転すると複合施設としてやっていくことになる。埋蔵文化財センターと科学センターと博物館との、現時点で何か3館での調整するような組織は必要と思う。そして博物館の移転後に今のライフパーク内での図書室で読み聞かせの活動等の場なくなる、といったことは良くないと思う。本の収蔵量が減るのは仕方がないが、読み聞かせの場を確保することは、ライフパークの施設の中で調整をすれば可能ではないか。活動の場を確保してあげることができれば、そういう層をスムーズに自然史博物館の方に取り込むこともできると思う。複合施設化することで、現在のライフパークがどう変わり、

それで出てくる問題はこういったものがあるのかというのを、今の段階から洗い出して対策をしていただければと思う。

事務局

ライフパーク倉敷の新博物館の整備の中で、一応、図書スペースは縮小される、という形にはなる。今、図書室には職員が配置されているが、それがなくなるとなれば、水島の方にも交流センターがあり、水島図書館が新しく入る。同じ水島地区なので、そちらが活動の場というようになる。新しく自然史博物館ができたからといって、読み聞かせの場がないというわけではなくて、図書の司書の方とか、ボランティアの方を呼んできて、そこで自然史なり科学センターなりの本を読み聞かせするというのも、もちろんできるかと思っている。なので、こちらの方としては、自然史博物館ができたから不平不満ということではなく、みなさん喜んでいただける、ということをやに色々これからやっていく。今やっているのは基本設計、実施設計において、展示の業者と建築の業者と、我々の自然史博物館側と、その3者でより良いものを作っていくということで、熱い話をさせていただいている。それぞれの業者も予算が限られているので、その中で色々あろうかと思うけれども、そこをもっと、より良いものをやりたいということで取り組んでいる。博物館としても、生涯学習課としても、全体でライフパーク倉敷としての拠点になるので、それぞれの良いところを出し合って、みなさんに喜んでいただけるようにやっていきたいと考えているので、ご理解のほどよろしくお願いしたい。

委員

自然史博物館の話がある程度進んだら、できるだけ現在の利用者の方々に「こういう施設ができて、こういう複合施設になるんだよ」という丁寧な説明をお願いしたい。

会長

他にご意見はあるか。

委員

これから基本設計、実施設計に入っていくと思うが、先ほどのご説明を伺うと、いわゆる普通の業者選定をしてプランニングしていらっしゃると思う。よくありがちであるが、業者さんがコンテンツを持っているわけではなく、あくまでも、博物館がコンテンツや何を発信するか、を持っている。それをきちんと業者さん側に提示しないで、よくあることとして、「なんか出せ、なんか出せ」と指示しては、出してきたものに対し「これはいい、これは悪い」と単に業者が提示してくるものに対して添削作業をして終わりになっちゃうことがある。展示の一個一個について、お客さんが何を感じて、何を受け取って、そこから何を自分の中で新しい視点を持って別のものを見れるようになるか、どういう化学反応がそこで起きるのか、どういう効果があるのかっていうことは、やっぱり、研究者だけの視点では厳しい。一方で、業者さんの視点だけでも厳しい。じゃあ、誰がそこを見るか、

みたいなのところも、ぜひケアしていただきたい。素晴らしい展示はすごくいっぱいあるけれども、ただ並んでいるだけ、標本だけの力に頼らない、そこでしっかりと様々な教育活動、教育の効果があるような展示、広がりがある展示というのをぜひ考えていただければなと思っている。

会長

委員も色々そういったことで苦労されてきたようだ。実際作っていく過程では、いわゆる業者へ発注するというシステムの中で盛り込みにくい内容があったり、あと、業者側から出てくる内容に関しても、実は、こちらが持っている内容というものが十分反映されていなかったりというようなことが色々ある。それが限られた時間の中で何らかの形にしていかなきゃいけないという枠がある。枠があると、色々と齟齬が生じてくるということは同種のプロジェクトでは必ず付随してくることである。その辺、先ほどのワークライフバランスも考慮しながら、より良いものを目指していただければと思う。特に、今、お話の中にあっただのは、学術コンテンツを持っている研究者というのは、その研究側から考えた仕組みというのは頭にバーンとある一方で、演出を考える業者さんの方には、その演出主導型のストーリーというものがある。で、実はその間にお客さんがどんなものを受けていくかという視点が必要になってくる。それを観客に見せている学芸員、それから、或いは観客である子どもたちとかの視点である。ここの内容に興味を持つ一般の方々とかと常に接している皆様、或いは教育コンテンツを考えていくことに特化したアドバイザーとかいうのは持っていらっしゃると思うので、その辺の意見を盛り込んでいただけたら、というように思う。補足があればお願いします。

委員

お子さんとか一般の観客に直接、聞いてその意見を取り入れるということではなくて、あくまでもプロの教育者として、子どもたち、或いはお客さんと展示との関わり合いを見れる人っていうのがすごく大事である。展示研究者を止める人というか、「そういうのはちょっとナンセンスです」と意見がしっかり言える人を、どなたか挟むっていうのが、理想的には良いと思う。そういう役割を担う方がいると良いな、ということである。

事務局

本市も委員の言われたことを大変心配していた。そうならないよう業者を決めて、自然史博物館の学芸員を交えて緻密な綿密な協議を重ねていくようにしている。それぞれを調整する役であり、本市の意見もちゃんと業者側に伝えられるような体制にもなっていて、より良いものができるように思う。皆様にご協力いただきながら、頑張ってやっていきたいと取り組んでいて、現状では委員の言われることは心配ないと思っている。

会長

ほかにご意見等はあるか。では、大体意見も出尽くしたところかと思うので、本日の協

議を終了させていただく。

6 閉会あいさつ

事務局（生涯学習部長）

自然史博物館としても、令和11年中の供用開始を目指し、それにむけて機運を高めていく。新博物館での展示方法等をバージョンアップしながら、イベントもあり、そういったことを踏まえて、これからますます良いものを作りたいと、職員一同の思いである。これからも皆様方におかれては、新館の建設に向け、或いは現在の運営において、より一層のご支援を賜るようお願いしたい。

7 閉会

事務局

以上をもって、令和8年度第1回倉敷市立自然史博物館協議会を閉会とする。

閉会后、特別展「自然にひそむアブナイやつら」展示解説

以上を、令和8年7月29日開催の令和8年度第1回倉敷市立自然史博物館協議会議事録（要旨）とすることに同意します。

令和8年 9月 3日

倉敷市立自然史博物館協議会

会長 石垣 忍

